

きれいな住みよい農村生活へ

農山漁村生活環境整備の指導



農業経営の近代化、合理化が進むにつれて、農家生活自体も多様化がいちじるしくなってきた。そして、生活環境の整備という問題も真剣に考えられるようになった。そこで昨年、県下十四カ所を対象とした「生活環境整備」の調査結果を参考として、問題点のいくつかを拾ってみることにした。

生活改善だけでは解決されずに、それが地域の問題として処理されたあとでないと、うまく課題の解決が進まないことがある。生活水準の向上、生活様式の多様化がそれに拍車をかけていると思われるが、ごく最近まで、個人生活で始末のついていた、ごみ処理、し尿処理、下水処理などがそれぞれである。

生活改善を先行していく過程で、農業用に肥料として利用されていたし尿が必要になり、衛生的な面から生活改善資金を利用して水洗便所に改善しようと計画したところ、浄化槽からの排水先がなく水路に流れ込むのを地域の人々が反対するので、部落の人々と解決策について相談した結果、用水路と排水路を作るということで無事に解決した、という、例がある。しかし、問題解決が、いつも、こんな風に、前向きに進むとは限ら

ず、農村生活環境上に多くの問題を抱えている現状である。

県下十四カ所の実態調査

県では、農山漁村生活環境整備特別指導事業として、昭和四十一年度から推進協議会（関係各課、専門相談員による構成）を設置して、農山漁村の生活環境についての調査、研究にあたってきているが、一方、巡回式の相談所を県下各地域において開催している。この相談所では、具体的に現地の状況に応じた指導を展開し、例えば農村住宅や地域共同体のための施設の指導などに当たっている。さらに二百戸から四百戸の集落を単位としたモデル地区を指定し専門的に、生活環境の問題を検討し、アドバイスしている。このモデル地区は昭和四十一年度が泗水町、天明村、四十二年度が植木町、菊鹿町、四十三年度が湯浦町、四十

四年度が玉名市と七城村となっている。ところで、この農山漁村生活環境整備特別指導事業（昭和四十一年度）の一環として、昨年県下十四カ所の農村（調査対象戸数四百戸）で生活環境の実態調査を行なったが、このたび、その結果がまとまったので、それらを参考にして農村における生活環境の問題を考えて見ることしよう。四十三年度調査では五〇%あった五十年以上の老朽住宅が、四十四年度は三三%と減少しており、農村における住宅の更新が伺われる。しかし住い生活の問題は未だ多く、「すさまじい風が吹いて冬が寒い」「四八・七%」「間取り不便」「子供室が欲しい」がそれぞれ四〇%を占めており、「田の字型」間取りからくる、生活上の不利な点が、そのまま問題点となっている傾向は昨年と同様である。これに伴って、増改築希望は平均二か所ずつの改修を予定している。

目立つ、子供部屋と台所の改善

農村住宅の改善で最も多いのは、子供部屋五〇%、台所四一%、夫婦部屋、便所がそれぞれ三〇%となっている。

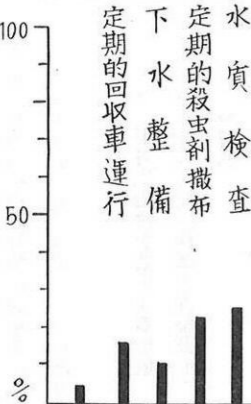
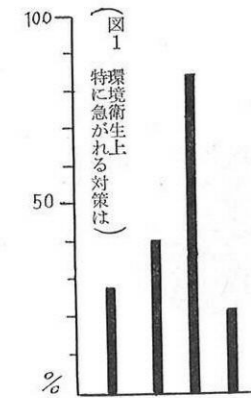
し尿処理は大部分の農家が自家処理をしているが、将来、浄化槽による水洗化を調査対象の%が望んでいるが、農村に下水溝の完備したところは、殆んどなく△図1Vにみられるように、「環境衛生上特に急がれる対策」の意識調査では四割の人々が、下水溝の整備を希望と高い数字を示しているのが注目される。ゴミ

□生活の多様化と生活環境
住まいの改善を進める時に、個人の生活の中で解決されることと、個人の

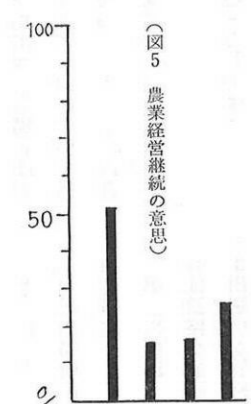
処理については、調理用にも、入浴用にも、ガス器具が普及されたため、日常生活から出る紙くず類の処理が、従前に比べると問題となっている。

□始末に困る不燃性物塵埃

可燃性ものについては、七割が、なんらかの方法で、焼却しているが、農村の人々が困っているのは、不燃物の始末である。この不燃物塵埃については、半数近い人々が山とか川、部落道など、いわゆる共同の場所に捨てているため、村の中が、大変汚ない。半数の人口が現在のところ、自宅敷地内、又は持ち山などに埋めているが、定期的に塵埃回収車を運行して欲しいと殆どの人々が要望している。下水整備についても、回収車運行も、村の生活をよくするために、こうあって欲しいという、積極的な意見の取りまとめであり△図2Vに見られるように、それぞれ一、二位を占めている。個人の生活環境で困っていることに、道がせまい、暗い、交通危険、土埃り、排水不良など上位数を占めているが、個人の問題として止めておかずに、もっと、衆知を求めする方法がないだろうか。



害虫が多い
ため池にさぐがない
土埃りが多い
騒音大きい
風通しが悪い
日当たりが悪い
悪臭がある
大雨浸水
排水不良
道がせまい車が入らぬ
道がくらくらい
交通の危険
がけくずれ危険



その他
資金が充分にない
労力が少ない
土地が足りない

□見直された、託麻村の共同清掃
鮑託郡託麻村では、生活改善グループ員が、生活環境の調査を実施した結果、塵埃の処理に各家庭困っていることが判明して、これを、個人の問題として放っておかず、共同の問題として取り上げてみた。役場に相談した結果、不燃物回収車の手配もうまくゆき、グループが中心になって、各部落一斉清掃を行なった結果、ビニール布や、空罐、あきびんで、汚

れていた川も、何年か振りに美しく澄み、大変、快適な結果が実現された。個人で解決できること、部落程度の自治体でできること、さらには町村の単位で、できること地域を越えた問題として、解決に当ることなど、何か一つの改善のために、いろいろな方策が考えられる。それにしてもまず、その地域を支えている人々が、よりよい生活環境をつくるための問題を「人のこと」と考えず、真剣

に、自己の問題意識として取り組むことが、第一歩ではないかと思われる。又、正しい認識の上に立って、その内容に依り、問題の大きさを分け、上位計画に織り込んで貰う努力が必要ではないかと思われる。昭和四十四年九月の国の農政審議会の答申では、「住民の意向に即応した集落整備であり、生活環境条件の総合的整備を進める必要と、緑と憩いの場としての生活条件を整え、自然の渴望と、レクリエーションの場としての農村を」と、うたっている。今回の調査はそういった当面する農村生活環境の中の幾つかの問題点の表われでもあるが、今後それぞれ分野で望ましい解決策への努力を続け、明るく、清潔な農村の生活環境を実現したいものである。